

つながる・ひろがる交流会～平和が丘学区～

日時：令和3年12月10日(金)

午後1時30分～3時00分

場所：名東区役所 講堂

テーマ 「平和が丘学区の防災活動」

1 概要

(1) 平和が丘学区の防災活動について

学区の防災委員会は7つのグループに分かれて活動している。

学区では、災害発生時の一時避難場所の提供や資機材の貸出などをしてもらうために、4つの事業者と支援協力協定を結んでいる。

防災委員会は阪神淡路大震災を契機に平成15年に発足した。平成16年からは学区独自の防災活動として、「防災あんしん調査」を開始し、その後今年まで18年間毎年実施している。

住民の防災活動への参加意識向上のため、学区全住民が対象となる学区総合防災訓練と各自治会の自主防災会実施する防災訓練を行っている。

(2) 防災あんしん調査について

大地震などの災害発生時に地域住民の安否確認や救命救護のために活用するものである。

調査の流れは、防災委員会から各自治会長を経由して組長が各戸に配付する。その後組長が回収し、自治会長が集計する。調査票は自治会長が保管するが、災害時には自主防災会長に手渡し、安否確認等に活用する。

名東区で実施している名東総合見守り支援事業と防災あんしん調査との違いは大きく2つあり、防災あんしん調査では自治会加入の住民全員を対象としていることと、情報提供の同意については、調査の趣旨に同意し、自主的に提出していただいているという点がある。

令和3年度の実施状況は、回収率が85%であった。

(3) 今後の課題等

回収率の一層の向上を図る必要があり、自治会未加入世帯への調査協力などの課題がある。

マンネリ化の回避と調査の質の向上を図る必要があり、毎年書面により実施しているが、時代に即した新しい方法などを検討する必要がある。また、避難先について、今後は自宅避難をする人の割合を増やす必要があると考えており、どのような啓発活動をすればよいか考えていくことが課題である。

調査の有効活用については、実効性を高めるために、自治会で年1回やっている自主防災会防災訓練に結果を取り入れた訓練を行うなど、具体的に実施する必要がある。

いずれの課題にしても住民の協力・理解がないとできないため、色々な活動を通じて、防災・減災の大切さを訴えていく必要がある。

2 意見交換の主なやりとり <質疑応答・意見・感想>

○大災害とはどのような災害を想定しているのか。

→立地的に水害の心配はしていないが、建物の倒壊と火災を想定している。

○平和が丘学区はおそらく震度6弱ぐらいの地震が起こると想定されているが、施設の耐震化率などは把握しているのか。

→市の耐震化促進事業の調査対象学区となり、一部の自治会の昭和55年以前に建てられた戸建て住宅を訪問したところ、半数くらいが既に建て替えや耐震補強をしていた。また、比較的新しい住宅が多く、震度6弱では倒壊しないと想定している。

○平和が丘学区の避難所に全員は収容できないなどの広報をどうしているのか。

→大災害が発生した際も自宅避難を大原則としており、学区としても自宅避難を勧める広報をしていく必要があると考えている。

○市で全員避難できるような施設を作る予定はあるのか。

→市の被害想定上、市全体の避難所は足りている。名東区はどちらかと言えば安全で、収容数も足りているが、今は知人・親戚・市外を含めた自宅避難も選択肢の一つとしている。

市では、新たにホテルや福祉施設と契約を結び、避難所として使えるようにするなど、増やす努力をしている。要件はあるが、指定ができるので、学区に使えるような施設があれば、区を通じて教えていただきたい。

○コロナ禍やコロナ禍以外での避難所の収容人数はどのように想定しているのか。

→平時でも実際は収容人数の半数から3分の1以下になり、コロナ禍では、さらに半数から3分の1以下になると想定している。

○小学校や東邦学園へのアプローチの仕方が知りたい。

→小学校とは防災教室は行っているが、教育委員会との連携までは至っていない。東邦高校の防災訓練に協力する中で、高校から学区の防災訓練への参加とか、災害時にどのような対応ができるかなどの検討はしているが、具体的には決まっていない。また、大学については、東邦学園と協定を結んだ際に耐震補強工事前であったため、避難所の指定をしておらず、これから検討していく。

○防災あんしん調査票の回収率85%は驚きである。また、発災時にどのような使い方をするのか。

→自治会長は災害対策委員として避難所に行くため、現場に残り、中心となって安否確認などを行う自主防災会長が名簿を預かって活動するので、平和が丘学区では自主防災会長と自治会長をすべて分けている。

○平和が丘学区では、自主防災会長と自治会長の人員をどのように継続して集めているのか。

→繰り返し分けるようお願いするしかなく、5年かかった。自治会長になった方は横滑りで自主防災会長になるようにしている自治会も多くある。

○コミセンを特別な避難場所として利用するとしているが、どのように活用するのか。

→障害のある方など特殊な事情がある方が入る想定である。

○個人情報の問題はどのように克服したのか。

→一番大きな問題であり、過去にも責任が持てないという自治会長もいたが、何とか理解していただいて、可能な範囲で協力していただいている。

○防災委員会は何人でどのようなメンバーで構成されているのか。

→20人である。自治会役員やその経験者や協力していただける方々で構成されている。

○名東区は避難所になる学校がため池跡地にある場所などあるが、安心なのか。

→名東区は他区と比較して安全という意味である。決して災害の恐れがないわけではない。地

震ハザードマップも過去の地形を加味して被害想定している。

防災危機管理局も新しい被害想定を更新しており、今後地域へも示すことができると思う。防災について、決して地元丸投げするわけではなく、行政としても精一杯行うが、阪神淡路大震災においても、自助・共助の力で救助された方がほとんどで、それが事実である。

3 まとめ

(1) コミュニティサポーター

平和が丘学区は大きな被害想定がない状況で、防災意識が高く、これだけの活動ができていることが素晴らしい。

(2) 平和が丘学区連絡協議会会長

来年度は中学校への働きかけを行っていく予定である。

防災委員に幼稚園から大学、学童保育の関係者が入っている。今後もさまざまな人を巻き込んで進めていきたい。

(3) 区長

防災は 100 点満点を目指すことは難しく苦しいので、現状から 5 点 10 点とレベルを上げられるように頑張っていくことが大事である。

今後も地域の皆さんと協力して、災害時に備えていきたい。